質問 持続可能な奥出雲町の人口対策を

町長 住みたいと実感できる施策に取り組む

田食　道弘　議員

質問 日本で唯一の田舎暮らし情報月刊誌「田舎暮らしの本」が2022年版住みたい田舎ランキングを発表し、飯南町、雲南市は全国トップクラスだったが、本町は及ばなかった。欠けている魅力、施策は何か。

町長 上位に位置付けられることは市町村のイメージアップにつながるが、何が本町に欠けているかを回答することは困難だ。若者や子育て世代のニーズを的確に把握し、奥出雲町に住みたい、住んで良かったと実感できるよう、施策に反映させていきたい。

Iターン希望者の必読誌
「田舎暮らしの本」で本町もアピールしたい

質問 人口減の顕著な地区を優先して、サテライトオフィスを複数個所設置し、リモートワークに取組める環境整備を進めることが必要では。

町長 「みらいと奥出雲」のようなレンタルスペースやサテライトオフィスを併設した施設を各地区に整備すれば様々な効果が期待できる。町の遊休施設や学校再編後の跡地利用等も視野に入れ、十分検討していきたい。

質問 子育て夫婦や若者の転出を食い止め、I・Uターンを呼び込むには住宅対策が必要だ。人口減が顕著な地区や連担地に宅地分譲、町営住宅・アパート建設、空き家あっせんなど多様な住宅施策を展開すべきだ。

町長 町営住宅を建設する計画は無い。3年度より新たに定住推進住宅整備支援事業を創設し、町内事業者による集合住宅建設への支援を行っている。分譲地については町所有の遊休地について引き続き適地調査していく。

新型コロナ対策の新たな展開を

質問 本町では第6波に入って急速に感染が拡大している。PCR検査の拡充と町内検査体制強化、検査機器増設、検査料無料化が必要だ。社会福祉施設、学校、幼児園の職員等にはPCRでの定期的検査が必要だ。無症状の感染者把握も必要だ。県のPCR等検査無料化事業が利用できるよう町内の無料検査実施場所設置に助成を求めるべきだ。

町長 今後の状況によっては町村会を通じて県に要望したい。町独自で要望する考えは無い。

にぎわう無料検査実施場所（東京都内）

質問 障がい児の支援をどう進めるのか

町長 支援の重要性を認識し、支援体制の拡充に取り組んでいる

糸原　文昭　議員

質問 第2期奥出雲町障がい児福祉計画にある児童発達支援センター、放課後等デイサービスなどが未設置であり、障がい児の支援をどう進めるのか。

町長 今後、障がい児通所支援等事業所は、地域部会などで具体的な協議を行い、令和5年度末の設置に向け計画を進める。

質問 町内には児童発達支援のための事業所がないことから、通所のための交通手段の確保は。

福祉事務所長 障がいのある子どもや家族が安心して日常生活が送れるよう必要な支援について、関係事業所等協議し、実現に向け努める。

放課後等デイサービスの代替えである
日中一時支援事業には限界がある
（放課後児童クラブ　スマイル）

質問 放課後等デイサービスは、第2期奥出雲町障がい児福祉計画と第2期奥出雲町子ども・子育て支援事業計画が異なる課で計画されているが、対応は。

福祉事務所長 福祉事務所で対応し、子ども家庭支援課をはじめ、関係課、関係機関と連携し、それぞれの計画を進める。

質問 新しくこども家庭支援課が新設されたことから、こども・子育て支援事業計画の見直しが必要ではないか。

結婚・子育て応援課長 こども・子育て支援事業計画は5年計画で、来年度が中間の3年であり、中間の見直しを行う予定としている。

特定看護師の養成について

質問 町立奥出雲病院における特定看護師の養成について、どう考えているのか。

町長 特定看護師をはじめ、認定看護師など資格を取得できるよう支援体制を整えたい。コロナ感染症が落ち着き、病院として、安心して送り出す体制が整うことが重要である。

質問 特定看護師の人数は、特定行為ごとに必要と考えるが。

病院事務長 感染症認定看護師の養成を最優先とし、その後特定看護師の養成を考えている。

質問 すでに松江圏域や出雲圏域では、特定看護師による訪問看護が行われているが。

病院事務長 昨年設置した在宅診療センターの医師を中心に積極的に活動している。このことから特定看護師の養成ができたとしても、在宅や介護現場への配置を行うものでなく、特定看護師が活躍できる環境づくりに力を入れていく。

町立奥出雲病院での看護の様子